令和８年１１月６日市長定例記者会見

はじめに

市長

皆様、おはようございます。

会見項目に入る前に、今月22日投開票の鳥取市議会議員選挙について、少し触れさせていただきたいと思います。

11 月 22 日投開票の市議会議員選挙は、申し上げるまでもなく、市民の皆様の声を市政に反映させていく大変大切な選挙です。仕事のご都合や旅行等で投票日当日に投票所に行くことができない方は、期日前投票所を設置しますので、是非ともこちらをご利用いただきたく、改めてお願いしたいと思います。

期日前投票所ですが、市役所本庁舎、各総合支所をはじめ、市内に計 12 か所開設する予定としています。それぞれ期日前投票ができる時間は異なっていますが、イオンモール鳥取北、公立鳥取環境大学、鳥取大学については、改めてとっとり市報 11 月号や投票所入場券等でご確認いただきたいと思います。市役所本庁舎と各総合支所は８時 30 分から 20 時までですが、イオンモール鳥取北は 10 時から 20 時までで、11 月 21 日は 10 時から 19 時までです。公立鳥取環境大学は 11 月 17 日の 10 時から 18 時、鳥取大学は 11 月 20 日の 10 時から 18 時までですので、あらかじめご確認の上、ご都合のよい日に期日前投票所をご利用いただきたいと思います。

会見項目

１　市民サービスのデジタル化（DX）を推進していきます

市長

本市では、市民サービスの向上を図っていくために、デジタル化、ＤＸを推進しており、来庁していただかなくても手続ができるようなサービスを拡充しているところです。例えば現在では、転出届や介護保険に係る高額介護サービス費の支給申請等について、オンライン申請ができるようにしていますし、住民票等のコンビニ交付についても利用促進を図

っているところです。このような中、既にお知らせしているように、今年の 12 月１日から来年の４月 29 日まで、コンビニ交付手数料を一律 100 円とすることで、さらにご利用いただけるようにしようとしているところです。

今回、将来にわたって安定した質の高いサービスを提供するための取組の一環として、市役所の窓口受付時間を午前８時 45 分から午後４時 30 分までとし、現在よりも少し短縮することを試行したいと考えています。対象場所は、本庁舎の１階と２階、駅南庁舎の１階窓口で、試行期間は今月 30 日から来年の６月 25 日までです。なお、電話対応や職員の勤務時間については変更ありません。この試行結果の内容を検証した上で、本格導入ができるかどうかの見極めをしていきたいと考えています。あわせて、オンライン申請の利用促進やコンビニ交付の利用促進も図っていきたいと考えているところです。９月末現在で、マイナンバーカードをお持ちの方が 85.7％であるということで、このようなサービスもご利用いただきたいと考えているところです。

２　循環バス「くる梨」の収支改善に向けた取組

市長

８月７日の会見でも触れさせていただきましたが、「くる梨」の収支改善に向けた運賃改定についての意見募集を行うため、８月７日から９月３日までアンケート調査を行ったところです。調査を行う前には、運賃の値上げ等になかなか理解していただけないのではないか、反対のご意見も多いのではないかと思っていましたが、運行維持のための値上げは必要ということで、概ねご理解いただけたのではないかと思っています。運賃の引上げ幅を少なくしてほしいというようなご意見もありましたが、これも含めて大体７割の方に運賃の値上げはやむを得ないというようなご意見をお寄せいただきました。

また、回数券について、小銭を準備するのが少し煩瑣であるため引き続き残してほしいというようなご意見もありましたので、回数券については当面の間存続させていただこうと思っています。今回運賃を 150 円に値上げするということになれば、収支改善が図られるのではないかと思っており、今回の運賃改定によって収支率が大体 30％になり、現在の 20％から 10 ポイント程度改善されるという状況を見込んでいます。まだまだ収支率は低い状況なので、利用者の少ない時間帯や曜日の減便等の合理化を図りながら、運行経費を圧縮していくということが必要ではないかと考えています。

また、交通系ＩＣカードの利用促進を図っていくことで、利便性向上だけではなく、日々の運賃確認等の事務コスト減少にもつながると考えていることから、キャッシュレス化の推進も同時に進めていきたいと考えています。このキャッシュレス化を促進していくために、交通系ＩＣカード「ＩＣＯＣＡ」の普及キャンペーンを企画・検討しているところであり、内容が決まり次第、お知らせしたいと考えています。

３　男女共同参画センターを高校生の自習スペースとして開放します

市長

今年の８月に市政提案で「市役所の空き会議室を自習スペースとして開放できないか」というご提案があり、いろいろと検討はしてみましたが、本庁舎の会議室を開放するのは難しいという状況があるため、本庁舎の近くにある男女共同参画センター「輝なんせ鳥取」の研修室を活用した自習スペース提供に取り組みたいと考えています。

現在の利用状況は、令和７年度で1,659件、１万2,789人と、多くの皆様にご利用いただいていますが、会議等が予定されていないときもあるので、そういった際、高校生の皆様に自習スペースとしてご活用いただければという取組です。

この自習スペースの開放事業については、今月の16日からスタートさせていただきます。対象は高校生とさせていただいており、開放日時は月曜日から土曜日までの13時から17時です。会議室の予約状況等によっては開放できないときもありますが、できる限りご利用いただけるよう考えているところです。窓口への直接申込みで事前の予約等は必要なく、先着順ということにさせていただいています。

これについては、「輝なんせ鳥取」の公式Instagramでも周知させていただきたいと考えています。男女共同参画センターの空き会議室をご利用いただくという取組は県内では鳥取市が初めてですので、是非とも高校生の皆様には、例えばバスや列車等の待ち時間でちょっと勉強したいとき等にご活用いただければと考えているところです。

現在も市立中央図書館、福祉文化会館、県立図書館で一般向けに自習スペースを開放しているところであり、学生向けでは県民ふれあい会館が同じ取組をされているところなので、従来から既にスペースとして開放されているところと併せて、男女共同参画センターの方もご活用いただきたいと思っています。

４　とっとり若者地方創生会議・鳥取市連携による
第３回「高校生が考える輝く未来のワークショップ」を開催します！

市長

これについては、令和５年度の若者会議での政策提言を基に取り組んできているところです。令和６年度に第１回を、令和７年度に第２回を開催しており、今年度が第３回目の開催で、テーマは「鳥取市の高校生が『行ってみたい！』と思う職場見学・体験を考えよう」です。高校生の皆様がグループに分かれ、若者会議の皆様にファシリテーターとして加わっていただき、一緒になって地元で働く若者を増やすためのアイデアを考えていただくという取組です。進路選択前の高校生の皆様に、まちの現状や課題についての理解を深めていただき、鳥取市への関心を高めていくことを目的として開催するものであり、このような取組を通じて地域の未来を考える楽しさを実感していただき、鳥取市に関わり続けていただく人材を育成して、関係人口や若者定住につなげていきたいと考えています。

このワークショップでいろいろなご意見をいただきたいと思っており、いただいたご意見については、できる限り今後の鳥取市政に取り入れ、反映させていきたいと考えています。高校生の皆様のいろいろなアイデア等に期待させていただきたく思っています。

５　鳥取市公式 Instagram をリニューアルします！

市長

これまで公式Instagramによる情報発信に取り組んでいるところですが、このたびの市長選挙における公約で「ＳＮＳで若者をはじめ多くの皆さんに市の魅力を発信し、様々な声を市政にいかします」と掲げてきたところであり、市政情報を知りたい若者の皆様に的確に届け、そして市政に対してご意見等を言ってみたいというような皆様の声を広く収集し、市政に反映できるような取組を構築していこうとするものです。単に情報を羅列して発信するというようなことではなく、市民の皆様のニーズを見極めながら、市の職員が分かりやすく情報発信をしていく取組です。また、発信だけではなく、できる限りのコミュニケーションを行うこととしています。

これまでは、多くても月１回程度であった投稿回数を、週２、３回程度に増やすことを考えています。市政の重要な事項や新規事業等の周知はもとより、鳥取市政を身近に感じ

ていただけるような内容の動画についても、積極的に企画・投稿していきたいと考えています。また、コメントやダイレクトメッセージ等をいただくことで、皆様の声を広く収集し、市政に反映していきたい考えです。

今回はアカウントを新設するということではなく、従来のアカウントについてのやり方をリニューアルしていくものです。投稿開始については、本日正午から開始することとしています。多くの皆様にフォローしていただきたいと思っています。

６　旬を迎える「松葉がに」とナイトコンテンツ等の魅力を発信
**　　海外プロモーションを開催します！**

市長

本日は松葉がにの解禁日であり、漁が解禁された松葉がにの魅力や鳥取砂丘、鳥取城跡等の夜の魅力を発信する欧米・台湾向け海外プロモーションを実施します。

内容としては、冬の味覚の王者・松葉がに、鳥取砂丘や鳥取城跡等の本市を代表する観光スポット、それから鳥取砂丘イリュージョンと砂の美術館のプロジェクションマッピングが予定されており、こういったものも改めて海外に向けて魅力発信したいと思います。これに当たって、４名の欧米メディア・ライターの方を招へいしたプレスツアーを行うこととしており、また、２名の台湾在住のインフルエンサーの方を招へいしたＦＡＭツアーを実施することとしています。

昨年の鳥取県内の外国人延べ宿泊者数の伸び率は全国トップであり、本市を訪れていただく外国人観光客について、今年もその人数は好調に推移しているところです。鳥取市の１月から８月の宿泊者数は、昨年と比較して42％増加しています。こういった状況を好機と捉え、引き続き海外プロモーションを積極的に展開し、本市の旬の魅力を発信していきたいと考えているところです。

質問項目

７　ジャパンディスプレイ跡地の活用について

安松記者（山陰放送）

先般、都市計画審議会でジャパンディスプレイの跡地における商業施設整備計画の話が出ました。その点について、現状、今後の流れ、そして市長が思われる今後の期待感を教えていただいてもよろしいでしょうか。

市長

10月27日に開催された都市計画審議会では、ジャパンディスプレイ跡地の北側に約5.7ヘクタールの近隣商業地域を設定するということについて、事前審議ということでご意見をいただいたところです。この見直し変更について、都市計画審議会の委員の皆様からは概ねご了解いただいたとの判断をしています。これから素案を作成し、地元の皆様や関係機関の皆様にご説明して、原案をまとめていくということです。それから県との協議や都市計画法に基づく公告・縦覧を経て、改めて都市計画審議会で本審議を行っていただくというようなスケジュールになると考えています。また、地区計画の具体的な建築物の制限についても、次回の都市計画審議会でご審議いただくと考えているところです。

今後については私も大いに期待しており、この用地は鳥取三洋電機やジャパンディスプレイが創業され、ものづくりが行われてきた歴史のある場所であり、これから新しい取組が始まろうとしているところです。国においても、現在の政権は地方でクラスターを形成して産業振興を図り、国力をもっと高めていくというようなことを推奨し、進めていこうとしていますし、鳥取市、鳥取県においても、そのような国の政策に呼応した取組の一つとして進んでいくのではないかというような期待もあります。ものづくりの聖地といった土地なので、私もこれからの動きに大いに期待したいと考えているところです。

安松記者（山陰放送）

現在、鳥取駅前を中心ににぎわい創出を進めていらっしゃいますが、そこと関連して、補完的な意味合いというか、そのエリアが広がるような期待感もありますか。

市長

鳥取駅周辺、中心市街地の活性化については、平成19年11月30日に第１期中心市街地活性化基本計画を策定し、現在まで鋭意取り組んできているところです。また、現在鳥取駅周辺の再整備を進めていこうとしており、今年度中ぐらいには整備計画のまとめができるのではないかと思います。いよいよ、これから駅周辺の再整備が具体的に動いていくタイ

ミングにあり、鳥取駅周辺の中心市街地に近接した複数エリアでの新しい動きが将来に向かってこれから本格的に動いていくことに、大いに期待したいと思っています。鳥取市の将来の発展に関わっていく動きの一つではないかと思っているところです。

安松記者（山陰放送）

最後に１点、都市計画審議会において、周辺道路が渋滞するのではないかという懸念の声があったと聞いています。そういったところの対策について、現時点で何か考えていらっしゃることはありますか。

市長

10月27日の都市計画審議会の中でも委員の皆様からそのようなご意見をいただきました。これから具体的な動きが出てくることに併せて、将来どのように交通量が変化していくのかということを見極めながら、必要な対応について検討していかなければならないとのご意見について、今考えているところです。

本田記者（ＮＨＫ）

商業地域ではなく工業地域のことについてですが、鳥取市のものづくりの聖地ということで､現時点で具体的にこの場所に関心を示している企業はあるのでしょうか｡また今後、進出が決まりそうな企業があれば、是非教えてください。

市長

この場所に関心を持っていただいている企業はいらっしゃいますが、まだ内部での意思決定等には至っていないようですので、具体的な企業名等は公表を差し控えさせていただきます。ものづくりの関係で現在検討を進めているような企業がいらっしゃる状況であることは把握しているところです。

小林記者（山陰中央新報）

関心のある企業というのは、１社のみなのでしょうか。複数社からそういったお話があるのでしょうか。

市長

複数社から関心を持っていただいていると思っていますが、特にその中で具体的に組織内部において検討を進めているところがあるということを承知しています。そのうち１社が特に具体的に進めていきたいというようなことなので、そこに期待させていただいているところです。

小林記者（山陰中央新報）

スケジュール感について、手順的には素案を作成して、県と協議して、また都市計画審議会へということですが、具体的に何月になりそうだというような、それぞれの目安のようなものはあるのでしょうか。

市長

改めて素案を作成し、関係者の皆様のご意見を聞いたり、縦覧したりというようなことを考えています。具体的なスケジュールまでは固めていませんが、速やかに進めていくことになろうかと思っています。

小林記者（山陰中央新報）

商業施設の関連もありますが、市民が集えるような場所にもしたいというご意向があるというように伺っています。商業施設や工業施設のオープンについて、いつ頃を想定されているのでしょうか。

市長

現在検討を重ねている企業の内部意思決定等とも関係してきますが、いわゆる商業施設等については、土地を所有する企業が考えていかれるということで、この２つの動きを連動させていくことになろうかと思います。これから、具体的に都市計画審議会での議論や審議を踏まえて、動いていくことになろうかと思っています。いつオープンするというところまでは、まだ具体的には承知していませんが、速やかに都市計画審議会の審議と併せて進めていくということになろうかと思います。

小林記者（山陰中央新報）

市としての意欲も含め、いつ頃までにオープンさせていきたいというような目標等は、見込んでいらっしゃるのでしょうか。

市長

現在、人口減少や若者の県外流出等が進んでいるので、そういったことに歯止めをかけていくことを考えれば、できる限り早く進めていただきたいと思いますし、鳥取市としてもできる限りいろいろな形でサポートさせていただきたいと思っています。いつまでにということは申し上げられませんが、できるだけ早くというような思いで、これからも都市計画審議会における審議も注視しながら、事業者の皆様の取組を進めていただけるように、鳥取市としても考えていきたいと思います。

小林記者（山陰中央新報）

企業とのやり取りの中で決めていくことだということでしょうか。

市長

はい。

８　外国人宿泊者数の伸び率について

本田記者（ＮＨＫ）

今日の会見の中で、外国人宿泊者数の伸び率が全国トップになっているとおっしゃいましたが、どういったことが要因であるとお考えでしょうか。

市長

まず１点は、コロナ禍が収束したということです。また、従来のいわゆるゴールデンルート、定番的な観光ルートについて、外国の方は大体経験されており、今度は日本海側も含めて従来の観光地とは違う場所の魅力を発見し、訪れたいというような需要が増えてきているのではないかと考えているところです。そのような中で、この山陰地方、特に鳥取市や圏域等の観光客が増えてきているのではないかと考えています。

９　「くる梨」の収支改善に向けた取組について

富田記者（朝日新聞）

今回の見直しによって、収支率10ポイント改善という見込みをご紹介いただきました。ただ、人口が減っていく社会であり、鳥取市だけではなく、公共バスの損益分岐点が下回っていくという状況で、この10ポイント改善をどう捉えていいかという話ではあり、対策としては運賃を値上げするか、便数を減らすかといった方策に尽きるではないかと思います。ただ、運賃を上げれば乗客が離れる可能性があり、便数を減らせばそもそもお金が入ってくる機会が失われるということで、損益分岐点がさらに遠ざかっていく悪循環のスパイラルに入ってしまっているのではないかというように捉えているのですが、中心市街地の公共バスを将来的にどうしていきたいのかというビジョンについて、今のところ市長はどのようなお考えをお持ちでしょうか。

市長

まず、公共交通の維持確保全体に関わる課題ではないかと捉えています。中心市街地だけではなくて、中山間地域をはじめとする市域全体で路線バスの減便が進んだり、あるいは廃止になったりするという状況の中で、立地適正化の取組もありますが、これからはコンパクトシティということで、中心市街地を中心に住んでいただき、いろいろな機能を集積させ、公共交通でつなぎ、利用促進を図っていくというような時代に変わっていくと思っています。そういったことを考えれば、中心市街地での公共交通の維持確保というのは、地方自治体にとって大きな命題であるというように思い続けています。

損益分岐点を下回って維持が難しいのではないかというようなご指摘も、全くそのとおりだと思いますし、先ほど触れましたように、収支率が以前の５割を超えるような状況になるためには、相当値上げするか、利用者が増えるかのどちらかでないと難しいと考えています。しかし、高齢化や人口減少が進んでいく中で、公共交通をいかに維持していくかということについては、これからも取り組んでいかなければならないと思っていますので、当面はこのような運賃見直しを市民の皆様にご理解いただき、運行していくということになると思っています。

将来のことについては、いろいろな要素があるので難しいですが、いろいろな形での交通のあり様を引き続き考え続けていくということではないかと思います。

富田記者（朝日新聞）

ありがとうございます。

そうすると、現時点で廃止の可能性は市長の頭の中にはないということでよろしいでしょうか。

市長

はい。当面、廃止ということはまだ頭の中にはありません。

富田記者（朝日新聞）

いろいろな方策を考えていきたいというものの中に、自動運転バスへの完全移行ということについては、現時点で市長の中でお考えがあるのでしょうか。

市長

自動運転への完全移行について、鳥取市ではこの実証事業に数回取り組んできており、95％ぐらいの割合で自動運転が達成できています。これは、かなりいいところまでいっているというような数値ではないかと思いますが、これを100％にするためには、まだまだ改善していかなければならないところがあります。また、単独でこの自動運転バスを導入するということになると、損益分岐点を下回っているような状況だと考えれば、現実的に、今完全レベル４を達成して導入するという状況にはないのではないかと思っています。ただ、県外等ではタクシーの、大都市等では自動運転での運行も現実化してきているようですし、単独でということではなく、複数の自治体等で取り組んでいけば、実現の可能性はあるのではないかと思っています。

それから、ドライバーの確保が難しい中で、完全なレベル４達成ではなくても、ドライバー不足がかなりカバーできるような運用や応用も可能ではないかと思っているので、自動運転バスの実証等については、いろいろな形で取り組めるような状況があれば、取り組んでいきたいと思っています。

後藤記者（日本海新聞）

「くる梨」の運賃は、150 円で決定ということでいいのでしょうか。

市長

ほぼ大体、そのような形で進めていきたいと思っているところです。

10　鳥取市公式 Instagram のリニューアルについて

富田記者（朝日新聞）

Instagram のリニューアルですが、これを事業と捉えれば、どれだけ双方向で市民を中心として市がやり取りできるかということと、実際に届いた声をどう市政に反映できたのかという２点が恐らく効果検証につながるというように思いながら聞いていました。市長公約なので達成具合はきちんと検証しなくてはならないと思うのですが、ＰＤＣＡをどう回していくお考えでしょうか。

市長

双方向とのやり取りができた回数をカウントするのは一つだと思いますが、実際に行政に係る情報を発信して、しっかり届いているかというような検証も必要だと思います。これまでは、ともすれば発信しっ放しというようなこともあったのではないかと思っています。発信をしたからよいということではなく、しっかりと届いてご理解いただいているかというところまで検証していくことが必要だとは思いますが、なかなか数値化するというようなことに馴染まないところもあると思いますので、先ほど申し上げたように、月１回程度だった発信を週に２～３回の発信にする等、発信の回数を増やすことによって、届いてご理解いただける可能性も高くなってくるのではないかと思います。アンケートや意識調査等で検証していくということも一つの方法だとは思いますが、運用しながらＰＤＣＡのＣの部分について、しっかりと意を用いてやっていく必要があると思っているところです。

これからは、いろいろな事業についてご理解やご賛同をいただいた上で行政を進めていくということがますます重要になってくると思いますので、こういった取組をしっかりと行うとともに、いただいたご意見等を限りなく今後の行政に反映させていくといった双方向のやり取りが大切ではないかと考えています。

11　男女共同参画センターの自習スペース開放について

後藤記者（日本海新聞）

自習スペースの開放について、研修室１と研修室２がありますが、開放されるのは両方ですか。

男女共同参画センター所長

はい。研修室１と研修室２をそれぞれ開放する予定としています。

後藤記者（日本海新聞）

それぞれ 10 席から 25 席あるということでよいですか。

男女共同参画センター所長

研修室１が 15 席、研修室２が 10 席であり、部屋のパーテーションを開けたら 25 席になりますが、今回はパーテーションを開けず、部屋をそれぞれに分けて開放するという意味です。

12　鳥取砂丘号の実証運行結果について

小西記者（読売新聞）

米子空港とＪＲ鳥取駅間をつなぐ鳥取砂丘号の実証運行をされていたかと思います。10 月 23 日までの実証運行だったと思いますが、利用者数の結果等はいかがだったでしょうか。利用者が一定見込めれば本格運行へという話もありましたが、結果が出ていれば教えてほしいです。

観光・ジオパーク推進課長

事業はおっしゃるとおり終了しています。まだ最終の正確な数字ではありませんが、利用者数が 160 人強であったということで、66 便運行していく中で６割ぐらいの結果になっています。現在、分析をしている中で、台風による欠航があったり、現地でのＰＲ等について十分に上手くいかなかった部分があったり、いろいろと課題や反省点を精査している

ところです。ただ、便数について、６割の運行ができたというところに関しては、それなりの成果もあったのではないかと思っています。改めて、成果については共有させていただきたいと思います。

13　次期鳥取県知事について

本田記者（ＮＨＫ）

平井知事が先日の記者会見で６期目不出馬の意向を明らかにしました。現在、鳥取市では県とも一緒に駅周辺再整備事業等に取り組まれており、今後も様々な事業を進めていくことになると思いますが、県庁所在地の市長として、次の県政を担う知事をどういう方に担ってほしいか、お考えがあれば是非お聞かせください。

市長

次期知事は､有権者の皆様がご判断された上でお選びになるということだと思いますが、先ほどお話いただいたように、現在鳥取市は鳥取県の皆様と一緒になっていろいろな事業を進めていこうとしていますし、人口最少県なので、これは県でこれは市町村ということではなく、よりよく連携しながら様々な取組を進めていくということが、県と市町村との関係であると思っています。従来どおりお互いに協力し、連携しながら、県民の皆様と市民の皆様のためにいろいろな取組ができるような方がいいのではないかと思います。

小林記者（山陰中央新報）

今の質問に関連して、平井知事はいろいろなことをされてきたと思うのですが、何か功績や評価する部分について、市長として振り返ってみて、率直にいかがでしょうか。

市長

５期 20 年間、副知事等もお務めになられ、それ以上の長い期間、いろいろな形で私もお世話になったり、一緒に仕事をさせていただいたりしました。この人口最少県である鳥取県の魅力をご理解されて、それを外に発信してこられたというようなことがまずあると思いますし、鳥取市としては中核市に移行する際にも、鳥取県の皆様のご協力やご理解が必須である中で、全面的に協力していただきました。また、コロナ禍の中で、全国の自治体

や世界中が手探りで未曽有のパンデミックに対応していこうとする中でも、平井知事をはじめとした鳥取県の皆様としっかり連携させていただき、取り組めたのではないかと思っているところです。様々な面でいろいろとお世話になったり、連携させていただいたりしたことが、まず思い浮かんでくるところです。

小林記者（山陰中央新報）

先ほどの質問と少し関連しますが、後任の方に関して、平井知事の政策的な路線を引き継がれることが鳥取市としてもやはり望ましいと考えるのか、また、次の知事に求める政策的な連携について、どういったところを求めたいというようなお考えはあるでしょうか。

市長

どなたが知事に就任されても、組織の継続性のようなものは、行政や地方自治体に関わらず求められると思いますので、新しい方が知事に就任されて、何か政策や取組が全く変わってくるというようなことは、あまりないのではないかと思っています。なかなかイメージできませんので、その辺りについては、従来どおり市町村と連携していただきたいということが思いとしてあります。

小林記者（山陰中央新報）

片山前知事、平井知事と、官僚から来られた方であり、ここ２代続けて鳥取県出身者が知事になっていません。中央省庁出身の人がいいのか、地元出身の人がいいかなど、率直に何かお考えがあれば聞いてもよろしいでしょうか。

市長

地元出身の方か、中央省庁出身の方か、また両方であるかもしれませんが、そのことよりも、むしろ今の地方自治体が置かれている状況や国のありようといったものを正確に捉えられて、今何をすべきか、市町村とどう連携を図っていくべきなのかをご理解いただき、今の厳しい状況の中でできる限り市町村と一緒になってやっていただけるような方が望ましいというように、一般論として思います。